

他人事じゃないマイコプラズマ性乳房炎

先日、ある農家(つなぎ牛舎)でマイコプラズマ性乳房炎が発生した。感染はバケツを介して搾乳中に拡がり、高病原性マイコプラズマ(*Mycoplasma bovis*)だと診断されたのは計 5 頭となった。初発だと思われる牛(重度消瘦・難治性乳房炎で治療経過あり)をバケツで搾乳し、同時期に乳房炎のためバケツで搾乳していた 4 頭に感染が拡がった。その中には乳房炎のため獣医師による既往歴のある牛もあり、菌検査も行っていた。一般的にマイコプラズマ性乳房炎は導入牛の多い農場などで発生しやすいといわれているが、今回発生した農場では導入牛は 1 頭もない。初発牛は慢性炎症からの日和見感染等が疑われるが発症原因は不明である。

【今回の症状】

泌乳量の激減、黄白色/透明乳汁、多量のブツ、複数の罹患乳房など
細菌検査を行うも陰性(中には大腸菌や SA 等他の乳房炎の既往歴のある牛もいた)

【治療】

マイコプラズマ性乳房炎を発症した全頭に抗生剤の注射と軟膏による治療を行った。乳と肉それぞれの出荷制限が切れた時点で、乳汁によるマイコプラズマの再検査を行った。そのうちマイコプラズマ陰性となり、再び搾ることができたのは 1 頭のみであり、ほかの牛は市場もしくは廃用となった。

【今後のために】

今回マイコプラズマ性乳房炎の検査を行ったのは、畜主からの提案がきっかけであった。複数回菌検査をしているにも関わらず結果は陰性であり、なおかつ乳房炎の症状はひどく軟膏治療にも反応を示さない、などの稟告があった時点でマイコプラズマを疑うべきであった。畜主から検査の提案を受けるまで、我々獣医師のうち誰一人として疑うことができなかったことは深く反省すべき点である。

今回マイコプラズマ性乳房炎だと診断された全頭に対し治療を行った結果、再び搾ることができたのは1頭のみである。「あくまで個人的な意見だが、治療にかかるコストと搾乳時の手間、さらに感染が拡がるかもという精神的負担を考えるとまず淘汰を考えるべきなのかもしれない」しかし、バケツで同時期に搾っていた牛以外には感染は拡がらず、罹患牛を最後に搾乳することで新規感染は防げている。したがって極端に恐れ、即刻淘汰とする必要はないのではないかとも思う。ただし今回はつなぎ牛舎であったため、フリーストールではまた話は違いうだろう。

まずは出ないようにする。牛群に陽性牛が蔓延しないために、バルクや未経産の分娩後検査など定期的なモニタリングを継続して行うことを推奨する。感染が急速に拡がり、経営に大きな損失を与える感染症は多々ある。もし感染が発覚したらどのような方向にもっていくべきか、これを機に農家と獣医師で一度対話をもってみてはどうだろうか。

次のページでマイコプラズマ性乳房炎についてまとめました！

➤ マイコプラズマ性乳房炎

マイコプラズマ性乳房炎は非常に伝染力が強く、集団発生することから大きな経済被害をもたらす疾病として知られています。また、近年その発生農場の増加傾向が懸念されています。

➤ 原因

マイコプラズマという微生物は細菌より小さく、ウイルスよりも大きい病原体です。牛では乳房炎のほか、肺炎や関節炎の原因となります。

一般には感染牛の乳汁に汚染した搾乳器具や牛床を介して乳頭口から感染することで乳房炎を発症します。マイコプラズマ性の肺炎から乳房炎に移行したという報告もあり、近年では子牛の慢性肺炎を予防することが重要だともされています。

➤ 症状・特徴

急激な乳房の腫脹・硬結、乳汁は多量のブツに加え水っぽくなることもあります。泌乳量がガクンと下がったり、二分房以上の感染も特徴の一つです。一般的な抗生剤(軟膏)では効果がないことが多く、短期間に感染が広がっていく可能性があります。

➤ 治療・対策

病原体によっては高病原性とそうでないものがあり、早期の治療に効果を示すものもあります。まずは獣医師に相談してください。状況によっては淘汰を検討することも必要となります。

感染牛の隔離飼育や搾乳手順の見直し、ミルカーの消毒や順番の変更が必要となります。

➤ 予防

多くの感染症と同様に基本的な衛生管理が予防につながります。

- ✧ 導入牛を入れる際は隔離し、異常がないことを確認してから牛群に入れる
- ✧ 異常を確認した牛は隔離もしくは最後に搾る
- ✧ 定期的なバルク乳の検査
- ✧ 子牛の肺炎対策(しっかりとした初乳の給与や呼吸器病のワクチン接種)など



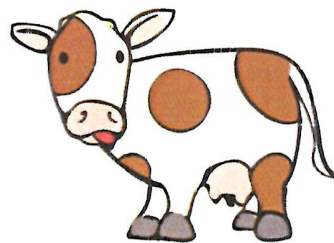
他の乳房炎と同じく搾乳衛生が基本となります。予防が一番重要ですが、早期の摘発で牛群内に蔓延することを防ぐことができます。これを機に搾乳手順や牛群内の衛生状況などを今一度見直してみてもいいかもしれません。

※ 最後に、こんな牛を見つけたら……

「菌なしと言われたのに症状が治まらない」、「同じようなおかしい乳房炎が増えている」、「軟膏を入れているのに症状は悪化している」、「しかも複数の分房がおかしい」、「泌乳の急激な低下」、など、このような症状に当てはまる牛がいたら、一度獣医師に相談してみてください。

参考：根室家畜衛生情報(H24年6月号 根室家畜衛生所)

酪農実習



皆様、こんにちは。新人の松下です。

先日、片岡農場で約1週間の酪農実習をさせていただきましたので、この場をお借りして簡単にご報告させていただきます。

♡搾乳♡

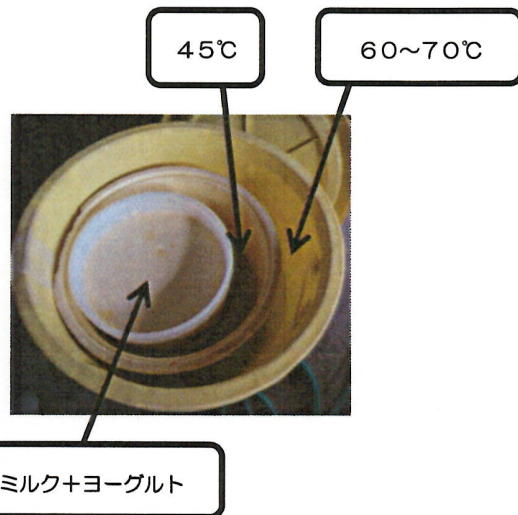
牛を30分以上待機室で待たせない！採食や休息時間を長くとることができ、牛のストレス軽減につながります。搾乳に限らず、いかに牛にストレスを与えずに素早く的確に作業をできるかが重要で、人は牛の奴隷です…。その言葉通りの華麗な手さばきはとても簡単に真似できるのではなく、私は完全に足手まといでした。

♡ベッドづくり♡

片岡農場では敷料に“砂”を使っています。砂のベッドは牛にとってとても安楽性が高く、細菌が繁殖しにくいので乳房炎や運動器疾患のリスクを軽減できます。清潔で快適なベッドを維持するためには、毎日の丁寧な除糞と砂ならしと月に2回程度砂入れをする必要があります。『牛に優しく人に厳しい』砂の管理は、私には汗をかきながらの作業となりましたが、片岡さんのスピーディーかつ美しい手さばきに惚れ惚れしてしまいました。

♡哺乳♡

ミルクは発酵乳を加えて与えます。発酵乳は牛乳20Lにブ●ガリアヨーグルト900g加えたバケツを、45℃のお湯のバケツに入れ、さらにそれを60～70℃のお湯に入れ、約1日保温すれば完成です。ミルクの飲みやおなかの膨らみ具合でミルクの量を調節し、毎日しっかり観察をしているため、子牛の診療で獣医をよぶことはほとんどないそうです。



実習を通して…

片岡農場の牛たちはまず外見が美しく、産次を重ねても元気に搾乳されており、砂のベッドと日頃の迅速かつ丁寧な作業の賜物だと感じました。

はやくその牛たちを安心して任せてもらえる獣医師になれるよう頑張ろう、と改めて気合の入った1週間でした。

最後となりましたが、片岡農場の皆様には大変お世話になりました。

今後もこの経験を活かして、一層努力していきます。

ありがとうございました。

松下裕香(まつしたひろか)

惜しくもトップセール
スまであと2000円